

目標の進捗状況報告書

(2012年度・大学)

担当部局は ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

本シートでの自己点検・評価を行う部局と項目・要素は次のとおりである。

対象部局	言語コミュニケーション文化研究科
大項目	6 教育内容・方法・成果 (研究科)
中項目	6.3 教育方法
小項目	6.3.1 教育方法および学習指導は適切か。
要素	教育目標の達成に向けた授業形態(講義・演習・実験等)の採用 履修科目登録の上限設定、学習指導の充実 学生の主体的参加を促す授業方法 研究指導計画に基づく研究指導・学位論文作成指導(院) 実務的能力の向上を目指した教育方法と学習指導(専院)
小項目	6.3.2 シラバスに基づいて授業が展開されているか。
要素	シラバスの作成と内容の充実 授業内容・方法とシラバスとの整合性
小項目	6.3.3 成績評価と単位認定は適切に行われているか。
要素	厳格な成績評価(評価方法・評価基準の明示) 単位制度の趣旨に基づく単位認定の適切性 既修得単位認定の適切性
小項目	6.3.4 教育成果について定期的な検証を行い、その結果を教育課程や教育内容・方法の改善に結びつけているか。
要素	授業の内容および方法の改善を図るための組織的研修・研究の実施

II. 目標の進捗評価と進捗状況報告(2012.4.30現在の進捗状況報告)

《進捗評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の自己評価を行っている。

進捗評価はA、B、C、Dの4段階とし、2012年4月30日現在における目標の達成度評価(2013年度の達成に対してどこまで進んだかの評価)を行った。

A、B、C、D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 学生の履修ニーズに対応した開講科目の見直しを行う。	→履修者数一覧。	B	B	B		
2. マルチメディアを活用した授業形態を2013年度までに3割に拡大する。	→マルチメディア利用の科目数。	B	B	A		
3. オムニバス方式の授業形態をさらに工夫する。	→オムニバス形式科目に関するFDワークショップの開催。	B	B	B		
4. 学生による授業評価制度を活用し、授業内容、運営方法等の改善を進める。	→学習効果測定の指標の開発、実施。	B	B	B		
5. 研究活動への学生の主体的参加を促すため、言語コミュニケーション文化学会の活動を強化する。	→学会での研究発表数。教員・学生の参加者数。学会の講演会、教員を主体とするシンポジウムの公開。	A	A	A		

☆

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→					
	→					

《進捗状況》

目標の進捗状況について次のとおり簡単に説明する。

目標1	2011年度開講された科目の授業アンケート調査の結果では、授業に関する満足度は非常に高かった。また2011年度末に開催したFDワークショップで学生と意見交換を行い、言語教育学領域のカリキュラムに関するWGを設置した。協議の結果、小学校英語教育関連科目2つを設置することになった。2012年度は言語文化領域WGを設置し、異なる語種の横断的な科目の設置を検討している。
目標2	2011年度開講された演習形式以外の開講科目について、大部分の担当教員からマルチメディア機器の利用が申請されており、積極的に活用されている。
目標3	2011年度に開催されたFDワークショップにオムニバス形式に関する事項が盛り込まれていた。今後、徐々に現場に生かされることが期待される。
☆ 目標4	全科目において学期末に学生による授業評価を実施している。授業評価の回答は、教員による学生の評価に影響が出ないように、成績の提出が終わった後で各教員に渡されている。授業に対して高い満足度が得られており、授業で興味が喚起された度合いも高くなっている。
目標5	研究活動への学生の主体的参加を促すため、学生が主催で言語コミュニケーション文化学会が年2回開催されている。そのほか、外部の学会での研究発表を促進するため言語コミュニケーション文化学会交通費補助制度が設けられており、2009年度～2011年度に年平均11名の学生が本制度を利用して補助を受けている。
備考	